

平成30年度 第2回総合教育会議議事概要

平成30年10月16日(火)に平成30年度 第2回総合教育会議が開催され、「子どもたち自身が未来を切り拓く力の育成について」をテーマに意見交換が行われました。

第2回総合教育会議の議事概要は別添のとおりです。

平成30年度 第2回総合教育会議 議事概要

日時:平成30年10月16日(火)

午後1時0分～午後2時30分

場所:惇明小学校 本館1階大会議室

■出席者(敬称略)

教育長 端野 学

教育委員

倉橋 徳彦、塩見 佳扶子、和田 大頭、大槻 豊子

市長 大橋 一夫

事務局

市長公室理事、経営戦略課長

■市長あいさつ

- ・5月に開催した第1回総合教育会議でも「子どもたち自身が未来を切り拓く力の育成」をテーマとして意見交換させていただいたが、現代社会は想像もつかないスピードで変化している。
- ・IoTやAIなどの技術革新が進む現代社会は「第4次産業革命」と呼ばれ、1970年代初頭からの第3次産業革命とは一線を画す社会が訪れていることを認識する必要がある。
- ・子どもたちを取り巻く社会そのものが大きく変わっていく中で、平成32年度から学習指導要領の改訂が行われ、学習の基礎となる言語や情報活用に加えて現代的な諸課題に対応できる資質・能力の育成に力点を置き、子どもたちが力強く社会を生き抜く力を身につける取組みをされると聞いている。
- ・今回のテーマである「変わりゆく時代を生き抜く人材の育成」は、子育て・教育の充実を掲げ、新時代の福知山づくりに向けて取組みを進めている本市にとっても非常に重要な施策であると考えている。
- ・本日は、全国各地で数十年、数百年に一度とされていたような自然災害が多発している中で、様々な自然災害から命を守るために必要な知識を身に付けていくための「防災教育」と、前回会議で議題とし、今回は授業を視察するプログラミング教育を中心とした「情報活用」について意見交換を図りたい。

■議事

意見交流 テーマ「変わりゆく時代を生き抜く人材の育成について」

市長

- ・平成25年、26年の台風、集中豪雨や、平成29年1月の大雪、台風、そして平成30年には7月集中豪雨のほか、台風24号、25号とこの数年気候の大きな変化を感じている。本市だけに限ったことではなく、各地で様々な災害が多発している状態にある。
- ・今月、IPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)から「1.5℃特別報告書」というものが出された。2015年にパリ協定が締結され、産業革命以降の気温の上昇は2度以下とすることを定めているが、報告書では2030年から52年までの間に気温は1.5度上がる可能性が高いといわれている。
- ・そうなれば、これまで以上に熱波がくる、海面上昇、豪雨等の異常気象の可能性が高まる。このまま推移すれば、子どもたちが生きていく自然環境はさらに厳しくなる。これに対応していくためには、社会の様々なシステムを変えていかなければならないということが示されている。
- ・これから直面する自然災害にどう向き合っていくかという点に関して、福知山のように激甚災害を受けた自治体が集まって水害サミットを実施している。今年度も参加したが、本市は災害の経験があるので、ある意味経験値が高いとも言える。しかし、経験則があるがゆえに、逃げないと判断した人をどうやって逃げてもらうかという課題がある。
- ・このサミットに講師として登壇されたのが、「釜石の奇跡」といわれた出来事について市とともに防災教育を実施してこられた片田先生であった。片田先生に本市の経験則について尋ねると、これからの災害には経験則は通用しないという言葉が返ってきた。
- ・子どもたちに災害に対してどうしていかなければならないか、ということは今教えていくことが非常に重要である。東日本大震災では、死者がでなかった市町もあるので、「釜石の奇跡」という扱い自体は片田

先生の本意ではないかもしれないが、そこで行われた教育のベースは、「自分の命は自分で守る」「常識にとらわれるな」という内容であり、子どもの頃からそうした考え方を身に付けておくことは非常に重要ではないかと感じた。

- ・今後、自然災害が確実に起きてくる。これまで以上に災害が頻発する可能性が高い中で、今後防災教育という視点においてどのような取組や考えが必要となるか意見交換をお願いしたい。
- ・プログラミングに関わっては、社会が大きく変わっているところであり、国ではSociety5.0とも言われている。狩猟社会(1.0)から農耕社会、工業社会へと変遷し、その後情報社会を迎えた後、超スマート社会が訪れるといわれている。これはサイバー社会と現実社会を高度に融合した社会といわれ、理解していくことが難しいものではあるが、あくまでも中心は人間であるということが示されている。
- ・プログラミングや統計学習などを通して情報活用能力を身につけていかなければならないと思っている。今年度からプログラミング授業を始めていただき、今後どんどん充実していくと思う。公立大学でも新たに情報系の学部を作ろうとしている。学部長に京都大学の西田先生に着任いただく予定である。了解を得たことではないが、例えば学部長から子どもたちへの講義なども実施できればと考えている。
- ・本日は防災とAI社会というような、全く異なる内容ではあるが、どちらもこれから子どもたちを待ち受けている社会に関することであると思っているので、いろいろと話ができればと思っている。

教育長

- ・大橋市長からの話にあったプログラミング教育や防災教育は、新しい指導要領に盛り込まれている内容であるのでまずは学習指導要領の大枠について話をしたいと思う。
- ・オリンピックの年から小学校、翌年中学校、次年度に高等学校と順次改訂される。その時代を生きる子どもたちにどんな力をつけてもらうかということが今まさに議論されているところであるが、現代社会は予測がつかない想定外の社会が訪れ、非常に複雑な状況となっている。そして、こうした社会の変化は、ごく一部の子どもたちではなく、すべての子どもたちがその影響を受けることになる。

・学習指導要領の基本的な方向性はよく知られていると思うが、4点挙げさせていただきたい。1つ目は学力3要素である。①基礎的な知識・理解の習得 ②思考力・判断力・表現力の育成 ③主体性の涵養という3要素をバランスよく育てるということ。2つ目は、大きな社会の変化の中で、自ら目的・目標を持つ力を付けるということ。3つ目は何を知っているかではなく、何ができるか。そして4つ目は、こうした方向性を社会と共有し、共通理解を図っていくということが挙げられている。

・この方向性の中でどんな子どもを育てるのかというと、これも3つ挙げられる。1つ目は主体的にものごとを考える力であり、主体的な情報収集が求められる。2つ目は対話を通して、自らを表現する力。3つ目は、試行錯誤の中で課題を発見し、自ら立ち向かう力。こうした力を身につけることが求められている。

・プログラミング教育、プログラミング的思考力はこうした方向性において求められる能力を養う教育とされている。以前からの教育で考えれば、「筋道を立てて考える」という思考に通じるものではないかと思っている。

倉橋委員

・防災教育に同感であり、自然災害が頻発することを当たり前と認識しなければならない。その中で防災教育は欠かすことができないと思っている。

・私自身も7月豪雨で被災したため、経験から子どもに伝えていきたいことを伝えさせていただく。

・豪雨で土砂が家に入り、家屋一部損壊の罹災証明を受け、様々な経験、支援を受け、身をもって災害を体験した。その中で、4点改めて防災教育の重要性を伝えていきたい。

・1点目は、電気水道のありがたさである。実感しないと本当のありがたさを実感できないということを実感した。子どもにどう伝えるかという、電気水道のない生活を体験させることが大事ではないかと感じた。こうした経験は、ひいては地球環境の保全にも意識向上するのではないか。また、止水栓やブレーカーの位置、役割もしっかりと伝えておく必要がる。

・2点目は被害の状況に対して、さまざまな危険を意識して防災マップ活用の学習を進めなければならないということである。避難所の位置や状況を事前に把握しておくことが重要であり、防災グッズもそうした

状況を認識した上で準備をする必要があると感じた。

・3 点目は、ボランティアのありがたさ、難しさである。被災時には、4 トントラック 150 台分の土砂を取り除いたが、まず土砂を除かないとボランティアに来ていただくこともできない。しかし、重機の入る日程もわからないため、市のボランティアセンターには依頼しなかった。知人からたまたまボランティアの申し入れをいただいたおかげで作業していただき、大変ありがたかった。ボランティアに来ていただく側の難しさは、来てほしいと希望すべきタイミングが把握できないということ。ボランティアセンターの運営も非常に難しいと思うが、マッチング等について検討を進めていただきたい。

・4 点目は保険教育の必要性である。公的な支援制度にも大変世話になったが、民間の保険もあって何とか同じところに住めることになった。学校で子どもに保険教育をしたことはないと思うので、災害に対する保険なども学ぶ機会を作っていく必要があるように感じた。

・防災教育の真髄は、地域社会や家庭の実態と合わせながら、体験を通して学ぶ機会を提供していくことであると思うので、その仕組みを検討していきたい。

・避難所は専用施設ではないが、避難に対応できるよう整備も進めていく必要があると感じる。

また、避難所従事職員も専門ではないが、適切な対応ができるよう研修等もお世話になればと思う。

塩見委員

・子どもの教育には学校教育と社会教育がある。学校教育では、ひとつしかない命は自分で守るということを目指して、地震・火災・不審者対応等を計画的、継続的に取組を実施している。

・市長からも「知識」という事があったが、今、知識はしっかりと伝えている。これをいかに生きた「知恵」に変えていけるかが重要となる。そのために社会教育が大きな役割を持っているのではないかと考えている。

・地域防災訓練についても、市民の意識が向上し参加者が増えている。自分の村も参加率が増え、危機管理室に相談し、いろいろな知恵をいただいたり、社協からの講師派遣、消防団からの災害時の対応などを教えていただいたりもしているが、参加するのは高齢者が主で、子どもの参加はないという実態がある。

・成仁小学校では見守り隊という組織があり、地域の安全マップを専門家と作ったり、炊き出し訓練を実施したりということもある。地域が人を育て、人が地域を育てていくという相互共助が出来ている地区はまだ少ないと思う。これからは学校教育と社会教育が連携、情報共有を進め、そこに行政の支援がいただければなおありがたいと考えている。

大槻委員

・倉橋委員、塩見委員の意見が全てだと思うが、子育てをしている者としてこれから子どもたちはどんな社会を生きていくのかということは非常に気になることである。昭和小学校のフェンスに掲げてあった言葉だが、自分で気づき考え行動するということが全ての基本だと感じている。

・災害や事件など、何かに遭遇した時にとっさの判断力を持つように育ててほしいと思う。プログラミング教育もそうだが、ものごとを冷静にとらえ、筋道を立てて考える力を身に付けてほしい。

・私自身も 4 年前の水害で被災したが、その経験を十分に伝えていけていないと感じている。過去の経験をもとに、避難しないという判断をする人もおり、中々経験を生かすことができない状況があるように思う。しっかり子どもに伝えていかなければならないが、脅しても防災意識にはつながらないと思うので、どうやって伝えていくかは非常に難しいが考えていかなければならない。

・地域避難防災訓練も子どもの用事を優先してしまい中々参加できないことも多いと思うので、家庭でも防災について伝えていきたい。学校、行政で連携してできることを考えていきたいと思う。

和田委員

・学習指導要領改訂の内容については一部のみが報道されているような状況であるが、識者によれば変わることはなかった日本の教育 150 年の変化であるとも言われているほどの大きな変化となっている。変化する社会の中で、子どもたちが様々な手段によって課題を解決できるようになるということに視点を置いた改訂であると考えている。

・特に大きな変化は、教育基本法と学校教育法も改正されたということである。教育基本法 5 条 4 項の文言の中に「情報」という言葉が加わったことは画期的である。読み書き算数という学習の基本の中に新たに「情報活用能力」が加わった。情報活用能力が言語能力と同様にすべての子どもに求められる能力として位置付けられた。

・培った力を駆使して実践し、失敗の中から学び取っていくという、プログラミング教育の真髄ともいえる部分が努力目標から必須となったことは大きい変化である。

・厳しい財政の中で、市民ファーストの財政運営を進めていただいていることに感謝申し上げるが、先進的に取り組んでいただいた情報教育に引き続き尽力いただきたい。子どもへの投資は将来に必ず反映すると思っているので今後ともよろしく願いたい。

市長

・主体性や判断力ということが重要になると感じている。防災の内容については、片田さんも「自分の命は自分で守れ」「自分で判断しろ」、「既成概念にとらわれるな」ということを言っている。学習指導要領の考え方が防災においても子どもに身につくかどうか重要となる。しかし、知識だけでは実践力、実行性が伴わない。地域や現場に合わせて、どのように自分が主体的に判断し、学んだことを生かしていくかが求められる。

・脅しの防災は長続きしない。内発的に「やらないといけない」という意識を高めていくことが重要と思っている。

・情報教育については、様々な要素について検討を進めていきたいと考えている。

・防災に関する冊子はあるが、それをどうアレンジし活用していくか。内発的意識を高めるために必要なことは何かを考え、加えていく必要があると感じている。

・避難所については課題意識を持っている。逃げてくださいと伝えているが、行きたい場所ではないということも感じている。避難所はそこまで長期の滞在を想定している場所ではないが、市全体の状況も踏まえて、整備について考えていきたい。

・東北では家族の絆が強いゆえに親子ともに亡くなってしまうという事態もあった。これから防災教育を進めていくことが実際の行動にどうつながるかと言うと、子どもは親のことを考えずに逃げ、そして親は子どもが逃げていると信じて自分が逃げるということにつながっていくと考えている。お互いの命を守るためには、子どもの主体性を信じてあげられる状態になるということが非常に重要と感じている。

■プログラミング教育視察

市長公室長

・これからプログラミング教育の授業視察に移るが、その前にプログラミング教育の内容について井上総括指導主事より説明をいただきます。

井上総括指導主事

・プログラミング教育は「なすことによって学ぶ」教育である。これは普遍の教育の原理原則のひとつである。さらに、プログラミング教育はその学習過程が、計画、実行、検証、修正というサイクルによって成り立っている。このサイクルの中で小さな成功失敗体験を重ねることで、さらに高い次元に進むという内容の教育である。

・本市のプログラミング教育は、生きていく上での知恵を獲得する可能性を持っていると考えている。本日の授業は6時間計画の最後の授業であり、検証・修正の場面となる。今申し上げた視点から、教育の狙いを感じていただければと思う。

(教室へ移動し、プログラミング学習の現場を視察)

■視察の振り返り

市長

・子どもが動かしているのは初めて見た。操作に慣れるのが早いのはさすが子どもたちだなという印象を受けた。

和田委員

・他の授業参観をした際、授業に入れていない子どもがいたが、この授業ではすべての子どもが授業に向き合っていたことが第一印象。

倉橋委員

・自分で調べ、確認にしている姿は印象的であった。あの内容を発展させて6年生ではどのように教育に活用するのか興味深い。

教育長

・今年度は3年計画の1年目ということで始まったところであるが、上級生での活用は研究している段階となる。

塩見委員

・教育格差は経済格差といわれる中で、公教育の予算によりすべての子どもがこの教育に触れられるということは本当に素晴らしく、チャンスをみんなが得られることは非常にうれしく思った。

教育長

・今日の授業は総合的な学習の時間を活用したものである。総合的な学習の時間の組み立てのベースには3つの流れがある。まず課題設定、次に課題解決方法の検討、そして最後に課題解決方法にふさわしい表現(発表)方法の検討である。今日の授業で最後に発表しているところまで見た中で、総合的な学習の時間でプログラミング教育を行う意図が自分なりに整理できた。

・本日も推進校以外の学校の関係者も見学に来ていたように思う。現在はプログラミング教育の先行実施の時期であるが、学習指導要領による実施までの準備として、教職員の研修はしっかりと実施していく。

市長

・さまざまな課題があるとは思いますが、今後研究を進めていただきたいと思います。本日は防災の話も含め、現場の視察等お世話になり感謝申し上げます。

・福知山の子どもたちが未来を切り拓いて、自分の将来を自分の力で生き抜けるたくましい力を身に付けられるよう、皆さまのご理解、ご協力をお願いしたい。

■端野教育長あいさつ

・防災教育についてはまずは自らの命は自分で守る、そして共助の精神の発展、家庭や社会の各機関との連携が不可欠となる。こうした内容を新しい学習指導要領の中で進めていきたい。

・プログラミング教育はかつての教育とは一線を画したような内容となっている。子どもが夢中になる姿をみるとよい内容なのだと感じた。しかし、これからの事業であり、様々な投資も必要となる。また指導者の育成も不可欠であるので、様々な面からもご指導、ご支援をお願いしたい。

・防災・安全という点については、学校教育、社会教育の場において子どもの命を守るという責任の重さは、防災に関わる裁判においても示されており、そこに身を置くものとして子どもを守るための学校の責任は重いと改めて感じたところである。

・下半期も残っているので、教育委員会部局と市長部局で引き続きしっかりと連携していきたいと思う。

以上